

マーケットの動き (2022年12月12日～12月16日)

先週の為替市場は前週末比、米ドルは対円で上昇（円安）しました。週の前半は、11月の米国CPI（消費者物価指数）の鈍化や14日のFOMC（米国連邦公開市場委員会）で政策金利の最終的な到達点が前回から上方修正されたことを受け、円買い・米ドル売りが優勢となりました。その後、米国の利上げ長期化観測を背景に円売り・米ドル買いが進みましたが、米国の景気悪化懸念が高まり、米ドルは上昇幅を縮めて週を終えました。ユーロは、前週末比、対円・対米ドルともに上昇しました。

投資環境見通し (2022年12月)

円に対して、米ドル、ユーロともにレンジ内での動き

米ドル：日銀とFRB（米国連邦準備制度理事会）との金融政策の方向性の違いがドルの上昇要因として継続するものの、FRBによる今後の利上げペースが鈍化するとの見方を背景に、ドルは円に対して上値は抑えられレンジ内での動きになるとみています。

ユーロ：日銀とECB（欧州中央銀行）との金融政策の違いがユーロの上昇要因として継続するとみられますが、欧州景気の先行きに対する懸念やECBによる今後の利上げペースが鈍化するとの見方を背景に、ユーロは円に対してレンジ内での動きになるとみています。

	12月16日	変動幅 (円)			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
米ドル/円	136.67	0.07	▲2.68	4.10	22.92
ユーロ/円	145.08	1.10	0.08	5.94	16.47

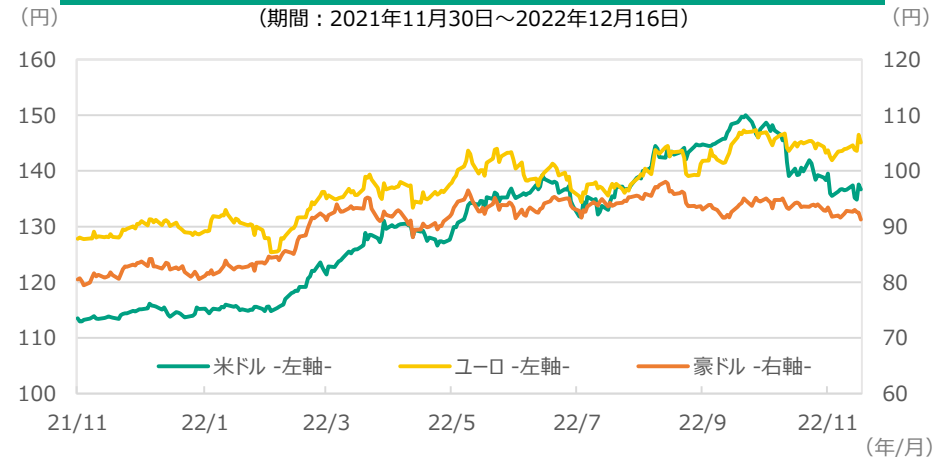
※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

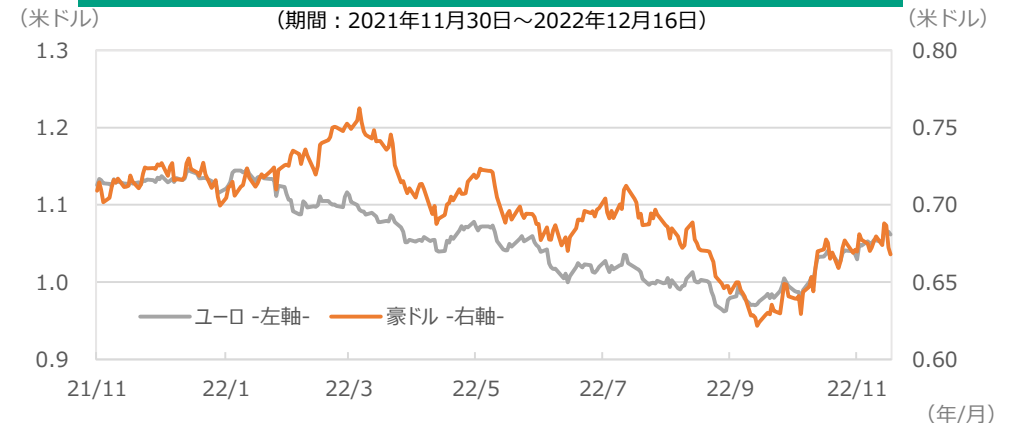
https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202212_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

為替レートの推移 (対日本円)



為替レートの推移 (対米ドル)



※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成